

名場面・名言発表会

使用教材：「走れメロス」（二年）



「走れメロス」の魅力はなんと言っても「言葉」「文章」です。圧倒的な力があり、子どもたちはぐんぐんひきつけられます。そのため、「言葉」や「文章」をじっくり味わうような授業にしたいと思いました。

今回の授業は、昨年度に取り組んだ「作品のよさを語り合おう」『星の花が降るころに』の流れを踏まえています（弊誌No.69参照）。文学を語り合う楽しさをよりいっそう実感し、文学を語る語彙を習得できる単元を設定しました。

第一時 学習の流れと目標の確認 名場面を考える

単元びらきにはいつも「学習の流れ」というプリントを配ります（図1）。それにより、どんな学習をして、何時間かけて、どんな発表をするのか、教師と子どもが「学習の流れ」のイメージを共有することができるところです。さらに、今回はそのプリントに、これまでの学習がどんなふうに関わっているのかも明記しました。一年のときに学習した「作品のよさを語り合おう」『星の花が降るころに』、『竹取物語』名場面発表会、二年で学習した「『アイスプラネット』くぐりちゃんの魅力」、『短歌の世界』鑑賞文を書く』などの単元で身につけた力を使って学んでいくということを、子どもたちに意識させました。

そして、いよいよ「走れメロス」に入ります。「場面を選ぶ」という意識で読み、

第二時 発表のイメージをつかむ 名場面を決める

各自に、名場面の候補を考えさせます。そして、名場面を決定します。

私は、学習のゴールを常に具体的にイメージできるように心がけています。今回は、事前に「発表のてびき」という台本の例をつくりました（図2）。台本形式にすることで発表の様子がイメージしやすく、押さえておきたいことがはっきりします。教師があらかじめ、発表の明確なイメージをもつことは、指導するうえで重要なことです。

朗読あり、コメントあり、名言探しありで盛りだくさんの内容ですが、今までの積み重ねがあれば大丈夫だと判断しました。台本をみんなで見ながら、これからの学習をイメージするのは楽しいものです。

図1 「学習の流れ」の内容

- ### 【学習の流れ】
- 一、学習の流れを知る（単元についての説明）……………一時間目
 - 二、発表の概要を知る
 - 三、「走れメロス」を読む（名場面の候補を考える 個人で）
 - 四、グループ分け
 - 五、発表のイメージをつかむ（台本形式で）……………二時間目
 - 六、グループ内で話し合う……………二時間目～五時間目
 - ▼名場面を選ぶ（「竹取物語」名場面発表会）
 - （どんな場面か：○○が○○で○○する場面です）
 - ▼群読の工夫を話し合う
 - ※いろいろな工夫をする（「朝のリレー」）
 - ▼内容把握＋作品のよさ＋批評
 - ・人物像をつかむ・心情をつかむ・作品のよさを語り合う
 - （「アイスプラネット」）＋（短歌他）＋（星の花が降るころに）
 - 【批評】
 - ▼発表用の原稿を検討する
 - ▼名言を選ぶ
 - ▼レジュメの清書・発表の分担を決める
 - 七、発表の練習・リハーサル・発表会……………六時間目～七時間目
 - 八、発表会……………八時間目
 - 九、まとめ
 - ・講評
 - ・学習の振り返り
- ### 【目標】
- 文章を読んで、場面をつかむ・心情をつかむ・作品を分析する（批評する）。
 - 朗読の工夫をし、堂々とした発表をする。
 - 効率的な話し合いができるように工夫する。

図2 「発表のてびき」プリントの一部

「走れメロス」名場面発表会 発表のてびき		名前
1 朗読	これから、一紙の発表をします。よろしくお願ひします。では、私たちが選んだ場面について説明します。	あいさつ 明るく張りのある声
2 甲斐	私たちの選んだ名場面は発表資料集●ページの部分です。この場面は、まさに物語が始まる冒頭部分です。梅の結核式のため、王様が次々と人を殺してしまおうという事案を知ります。その事案を知ったメロスは王様に王を捕ま、その王を捕まねばならぬと決心して、王城に入っていくのです。	場面説明 100字～150字
3 朗読	では、朗読します。	選んだページ・行
4 全員	メロスは激怒した。必ず、かの邪知悪慮の王を捕まねばならぬと決意した。（後略）	朗読（群読）
5 朗読	次にこの場面についてのコメントを発表します。	堂々と
6 甲斐	この場面は先ほども言ったように、まさにこの物語の始まりの部分です。メロスは梅の結核式のため、王様に次々と人を殺してしまおうという事案を知ります。その事案を知ったメロスは王様に王を捕ま、その王を捕まねばならぬと決心して、王城に入っていくのです。しかし、町の様子の変化に気づき、王の悪事ぶりを聞いたとたんメロスは激怒するのです。メロスという男は、本気で単純でまっすぐな性格だと分かります。王城の中に入っていき、この自決無罪だし、自分の命を顧みないで正義を貫こうとするところに読者は驚かされます。こういう人間は現実の世界にはあまりいないでしょう。僕としてはこういう英雄はあまりほしくありません。	人物像 登場人物の心情
7 朗読	メロスはこういふ男をこういふ人物として設定したところにこの物語のおもしろさもあると思います。冒頭部分のインパクトはやはりすごいと思ひ、書き付けられると思ひます。	批評（人物像） 作品の分析（よさ） 人物設定
8 甲斐	コメントは以上です。では、最後にこの部分の名言を発表します。	場面設定 ・場面説明 ・心理描写 ・セリフ
9 クラス全員	私たちが選んだ名言はこれです。 メロスは激怒した。必ず、かの邪知悪慮の王を捕まねばならぬと決意した。 それではみなさん、リビートアフターミー！ メロスは激怒した。必ず、かの邪知悪慮の王を捕まねばならぬと決意した。 メロスは激怒した。必ず、かの邪知悪慮の王を捕まねばならぬと決意した。	・ストーリー展開 ・心情の変化 ・結果 名言 紙に書いて黒板に掲示 堂々と リビートアフターミー 声をそろえて

東京都港区立赤坂中学校教諭
甲斐利恵子

第三時〜第五時

発表の準備

■場面説明をどうするか

自分たちの選んだ場面を100字で説明する文章を書きます。それを持ち寄って、グループとしての原稿を仕上げます。

■朗読・群読の工夫をどうするか

群読は、一年の最初に谷川俊太郎の「朝のリレー」という詩で練習済みです。また、「のはらうた」の朗読発表会も経験しています。古典の朗読も含めて、教室で大真面目に声を出す習慣がついているといい発表になると思います。

■コメントをどうするか

選んだ場面について、350〜400字でコメントをまとめます。今回の取り組みでいちばんねらっていたこと、しかしいちばん難しいことでした。

文学を語るにはそれなりの語彙力が必要だと思います。内容をしっかりと読み取る語彙力と、文学を語るための語彙力、その両方が必要になります。一年のときからどれくらい言葉を意識して指導してきたかが問われると思います。一年の「星の花が降るころに」の単元で使った言葉を中心に、

「少年の日の思い出」、二年の「アイスパラネット」、「平家物語」など、今までの文学の単元で使った言葉を振り返り、それを意識して使うように指導しました。一人一人がコメントを書き、「持ち寄っていいものに仕上げていく」という場面説明のときと同じやり方で行いました。

■どの言葉を「名言」にするか

この話し合いはおもしろいものでした。「メロス、君は、真っ裸じゃないか」を選ぶほうとした子に反論する子の理由が立派なものだった、「やんぬるかな」のひと言の重さを語る子がいたり、まさに小さな読書会が行われていました。選ばれた名言には「えい、えいと大声上げて、自身をしかりながら走った」「ふと耳に、せんせん、水の流れる音が聞こえた」「いや、まだ日は沈まぬ」「間に合う、間に合わぬは問題でないのだ」などがありました。どこをとっても「名言」になるのがこの作品の力だと思えます。

■発表の流れ・分担をどうするか

私は、子どもたちが一年生の頃から、何か発表するときには、自分たちでプログラムを考えさせるようにしています。役割分担の決め方も、友達のことを知っている二年生ならではの話し合いでした。

があるからこそ、「走れメロス」は長く愛され続けているのではないのでしょうか。

* * *

このコメントも、場面説明の100字の文章も、すべて朗読の練習をし、いい発表になるようにしました。

大きく息を吸う、声を前に出す、声の「張り」を意識する、話すような自然の流れで読む——その練習です。司会を担当す

◀図3 講評のときに配布するプリント(一部)

「走れメロス」名場面・名言発表会 まとめ(講評)

■文学を読み、味わうための表現集

【一班】
口には出していないはずの彼の心の叫びが、まるで大きな鐘の音となって鳴り響いている行動を読むように思えます。

■「い」でメロスの心情は目まぐるしく変わるのです。

■正義を貫く自分と認めようとする自分との心の葛藤をするメロスは、正義を貫くヒーロー—心の葛藤では終わらず、人間らしい黒い部分を見せてくれます。

■人は誰しもそのような様々な感情が混ざり合い、ひと言では言い難い感情を抱えている人はいませんか。

■メロスを追従から遠く離れた人物として描いているのではなく、読者が広く共感できる人物として描いたことでこの物語に更に厚みを出しているのだと思います。

■こうして、人間の心理を描くことで、読者は感情移入しやすくなります。

■この場面があるから、「走れメロス」は長く愛され続けているのではないのでしょうか。

行動を読む	感情移入
心情の変化	場面があるからこそ
心の葛藤	
人は、	
(抽象化・普遍化)	
読者の共感	
厚みを出している	



第六時〜第七時

発表の練習・リハーサル・発表会

次は、メロスが走るのを諦める場面を選んだグループのコメントです。

* * *

この場面は先ほど言ったように、メロスが友との約束を諦めそうになっている場面です。ここでは口には出していないはずの彼の心の叫びがまるで、大きな鐘の音となって鳴り響いているように思えます。

ここでメロスの心情は、めまぐるしく変わるのです。正義を貫こうとする自分と、諦めようとする自分。葛藤をするメロスは、正義を貫くヒーローでは終わらず、人間らしい黒い部分を見せてくれます。しかし、

る子も同じです。朗読の部分は一グループずつ、私の前でリハーサルをします。最後の仕上げとして、実際の発表と同じように行います。

第七時〜第八時

発表会・まとめ・講評

図3は、講評のときのプリントです。

「文学を読み、味わうための表現集」として、子どもたちが実際に使った言葉を明記したものです。コメントの中にあつた言葉・表現に着目すると、文学を読む力につながる語彙が多く出てきます。それを意識化・顕在化することが目的です。

私は、単元を終わるときは必ず、この「まとめ」の時間が必要だと思っています。この単元で何を学び、何ができて何が課題として残っているのかをきちんと言葉にする仕事です。教師は、子どもたちの学びを言語化し、蓄積していくという意識をもたねばなりません。この「まとめ」の時間がないと、「活動あつて、力なし」ということになりかねません。私たち教師が常に「言葉を教える仕事」をしているのだと自覚したいものです。